

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
71	火災	31	4	2	千葉県	なし	炭酸カリウム充填所内に煙が充満したもの。同日10:10鎮火。
72	火災	31	4	4	北海道	なし	発電ボイラーのバーナーガン取付部から重油が漏れ出した。2階フロアのボイラー付属設備周囲の保温材(グラスウール)に重油が付着。ボイラー本体の熱により加熱され発火に至ったもの。重油がしみ込んだ保温材は書き出して、大型消火により消火した。
73	火災(異常現象)	31	4	4	福岡県	重傷1名	産業廃棄物焼却施設の定期修繕工事において、溶接作業中、火花が作業員の着衣に着火した。当該作業員が火傷(左上半身)を負った。
74	火災	31	4	5	神奈川県	なし	家電リサイクル工場(家財選別棟)で鉄くず等が燃えたもの(火災)。公設消防隊・自衛消防隊で放水活動を実施し、同日18:33鎮圧。同日20:23鎮火、処置完了。
75	火災	31	4	6	大阪府	なし	用役施設の潤滑油ポンプ配管から潤滑油が漏れい(漏洩量調査中)。漏れいた潤滑油の一部が6Mパスカルの蒸気配管(温度約250℃)に接触し発火し蒸気配管の保温材が焼失(焼失範囲1m2未満)。4月6日(土)19:05消火確認
76	漏えい	31	4	8	兵庫県	なし	東西100m 南北2mの範囲にわたり、油状の物質が海面上に漏れい。
77	漏えい	31	4	7	千葉県	なし	純水製造装置のタンクから塩酸が漏洩したもの。漏洩した塩酸は中和槽へ移送して処理した。河川への流出はない。
78	漏えい	31	4	9	神奈川県	なし	20号タンクの底部から危険物(メタクリル酸シクロヘキシル)がしみ出したもの。20号タンクから別のタンクへ移送を実施中。吸着マットにより本日12:54処置完了。
79	火災	31	4	16	神奈川県	なし	燃料搬送設備(ベルトコンベアー、地上15mと10m、幅2m、長さ約500m)のうち約450m焼損。燃料棟の倉庫(防火造平屋建約15000m2)一棟焼損。燃焼物:PKS・木製ペレット(指定可燃物)。公設消防隊により、消火活動中。倉庫以外の個所については鎮火。倉庫は10m超の倉庫防火壁で5区画に分かれており、チップ状の燃料が7m程度山積みされており(倉庫内燃料貯蔵量:木製ペレット25000トン、PKS(パームヤシ殻)7500トン、合計32500トン)、各区画で現在消火活動中。重機を使用し、開口部から燃焼物を屋外に運び出し消火活動中。鎮火までは時間がかかる見込み。
80	漏えい	31	4	16	大阪府	なし	出荷棧橋 AパスからA重油が船舶甲板及び海上に漏れい。漏れい量は20L程度(推定)。オイルフェンスを設置済み。漏れい範囲等調査中。火災等はない。
81	漏えい	31	4	17	岡山県	なし	発生場所は棧橋に接岸していた船側受入タンク。出荷のため、棧橋に係留中の船に軽油を移送する作業中、荷役作業の監視不足から、船舶側の受入タンクから軽油がオーバーフローし、80L程度が船上に流出したもの。なお、漏れい範囲は船舶内に留まっており、全量ウェスで吸着回収済みであり、海上への流出はない。
82	漏えい	31	4	18	愛知県	なし	ボイラーへの重油供給ラインの途中の熱交換器のスチーム配管からA重油が漏れたもの。熱交換機内のスチームラインに開口があり、重油が浸入し、スチーム配管から漏れたと推測される。1:39ポンプの停止により漏れい停止。今のところ360リットル漏れいした。流出油の回収を実施。施設外への漏れい無。
83	火災	31	4	18	愛知県	なし	制御盤から出火し、2046時鎮火。
84	火災	31	4	19	神奈川県	なし	研磨機の熱によりビニールが溶融したもので非火災。
85	漏えい	31	4	19	神奈川県	1名(程度不明)	ローリーから屋外タンクへベンゼンを受け入れしホースを外したところ、ベンゼンが50リットル漏洩し、運転手1名が浴びたもの。漏洩は停止した。
86	火災	31	4	20	三重県	なし	計器室から異常信号発生のため、原盤確認したところ、オゾン発生装置に接続されている高圧電線から火が見えた。従業員により消火器にて初期消火。
87	火災	31	4	21	岡山県	なし	高炉西側 送風用ガスタービンでA重油を使用した。スタートアップの作業中に火災が発生した。21日23:01分に鎮火。負傷者等人的被害はなし。
88	漏えい	31	4	22	山口県	負傷者3名	2系統ある脱硫設備の硫黄トラップのうち、停止中の1系統の清掃を行おうとした際、誤って運転中の2系統のバルブを開けたことで硫黄(150度、18L)が噴出し、作業員3名に被液し、下肢に熱傷を受けたもの。現在漏れいは停止。負傷者は3名(2名:軽度の火傷、1名:2度の火傷)
89	火災	31	4	23	千葉県	調査中	地下5~6mの所で、電力ケーブルがくすぶっている。
90	火災	31	4	24	千葉県	無し	工場内変電所のケーブル約20センチメートルを焼損したもの。同日8:50鎮火確認。
91	火災	31	4	24	兵庫県	負傷者1名	洗浄液(非危険物)を蒸留し再生する装置の最終工程において出火。出火原因等は調査中。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
92	漏えい	31	4	25	千葉県	負傷者1名	硫化水素配管の仕切り板差し替え工事中に、意識を喪失したもの(4月25日18:00現在、意識は回復) フランジ部の締め付け作業完了し、硫化水素濃度を測定した結果、硫化水素測定できず。
93	漏えい	31	4	22	和歌山県	なし	純水装置の付属管(1インチ)から35%の塩酸約27リットルが漏えい。工場構内外への流出はなし。漏えい箇所付近に希釈水投入し構内5カ所でPH7.4を確認。その後希釈水投入停止。
94	漏えい	1	5	2	山口県	なし	70%希硫酸タンクから酸化チタン工場へ送出するポンプ吐出し口上部塩ビ配管(50A)塩ビ配管の接続部に縦1cm×横0.3cmの穴から希硫酸が噴出。パトロール巡回者が発見し、バルブ及びポンプを停止し、漏えいを停止。ポンプは酸化チタン工場のタンクレベル計と連動して自動起動するため、発見まで噴出が継続していたものと推定(漏えい量は最大1m ³)海上への流出はほぼなし、(海側排水口周辺のpH 7.0)
95	火災	1	5	5	神奈川県	なし	同工場、14号棟測定室内の分電盤扉表パネル及び配線並びに装置を損傷。同日17:48鎮火。
96	漏えい	1	5	1	愛知県	なし	潤滑油が200L、防油堤内の中に漏れる。当日9時55分漏れた油の回収完了。施設のオイルフラッシング中に配管が外れて、防油内に漏れ出した。吸着マットにより回収済み。
97	火災	1	5	2	千葉県	なし	硫黄回収装置の加熱炉から何らかの原因により出火したもの。同日14:55鎮火。
98	火災	1	5	13	千葉県	なし	ステンレス工場内において、高圧電源遮断器で火災が発生したもの。すでに消火済み。
99	漏えい	1	5	17	山口県	なし	陸上出荷施設での設備からローリーに軽油の積込作業中に漏えい。漏えい量は、軽油約200L。現在、漏えいは停止。
100	漏えい	1	5	17	神奈川県	なし	炭化水素合成樹脂製造所において、定期修理準備作業中、保温材の解体時にチューブ配管を破損し、熱媒油(危険物:第3石油類:1.1ジセニルエタン)が約2リットル漏洩したもの。消防隊の活動なし。弁の閉止及び破損箇所をテープで被覆し、本日14:00処置完了。
101	漏えい	1	5	17	山口県	なし	荷役中のタンクローリーハッチから軽油がオーバーフロー漏洩量は約100リットル(全て処理済み)にて、人的、物的被害および環境影響は無し。事故を起こしたローリーは5つの荷室があり、それぞれ4/2/2/2/4klとなっており総量は14klです。1番目4klと2番目2klの荷室に荷役後、3番目の2klの荷室に積み込んでいたところ、ローディングアームに設置されているオーバーフロー防止弁が作動しました。しかしながら、さらに積み増そうとして、ローリー運転手が当該防止弁を手動解除して荷役を継続した結果、ハッチより軽油が噴出しました。陸上出荷システムは荷室毎に予約・設定された量が積み込まれるようになっていますので、オーバーフロー防止弁が作動した原因は、荷室に前荷が残った状態で積み込んだと推定しています。(既に1番目と2番目に問題なく荷役が来ていることから、3番目で流量計が不調となり多く積み込まれたとは考え難いです。)ローリー運転手がなぜオーバーフロー防止弁を自らの判断で手動解除し積込を継続するという禁止行為を行ったのかは、おそらく本人は誤作動なのでもっと積込できると思い込んだとしか考えられません。(ベテラン運転手ですが、本人の供述はあいまいです。)なお、消防局からの事情聴取終了後の夕方、安全を確認の上、当該陸上出荷設備の使用を開始しています。
102	火災	1	5	20	愛知県	なし	火力発電所向け燃料配管付近で枯れ草火災が発生。同日11時12分に鎮火。
103	火災	1	5	20	愛媛県	なし	屋外の雑草約1平米を焼き、消火器にて消火済み。
104	漏えい	1	5	22	和歌山県	なし	潤滑油移送中、フィルターのフランジOリングから漏えい。漏えい量不明
105	漏えい	1	5	22	福島県	なし	アスファルト舗装された構内で作業員がフォークリフトによりドラム缶で製品である硝酸50リットルを搬送中、ドラム缶を落下させたことにより、ドラム缶が破損し、構内に約10リットルの硝酸が漏れ出した。消防隊の現場到着時(13時59分)には、漏えいは停止し、防災要員が消石灰により中和作業を実施していたが、16時25分に撤去まで完了した。
106	漏えい	1	5	22	神奈川県	なし	灯軽油水素化脱硫装置において、脱炭素塔出口付近の配管から軽油が6リットル流出したもの。現在吸着マットで軽油回収作業中。同日15:05使用制限命令を消防局発動。15:13漏洩個所の滞油抜き完了、約33キロリットル。15:21消防による漏洩停止確認。今後、配管の保温材を剥がし漏洩個所の特定及び原因等の調査作業を実施予定。
107	爆発	1	5	24	香川県	なし	コールタールピッチの蒸留装置においてパイロットバーナー洗浄後の再点火時に爆発発生
108	火災	1	5	25	茨城県	なし	排脱吸収棟での火災。鎮火日時 : 5月25日(土)17:30
109	漏えい	1	5	25	和歌山県	なし	業務用食器中性洗剤(モアコンパクト:指定可燃物(水溶性))を充填するためのフィルターから100L漏えい。
110	漏えい	1	5	28	千葉県	2名ともに意識清明	別途ケーブル敷設工事用の単管足場組立中に、単管を持った作業員が、足を滑らせて、足もとにあったドレン配管(塩化ビニル配管)が破損し、塩素水が漏れ出した。作業員と従業員が塩素ガスを吸引した。吸引した2名ともに意識清明、病院に搬送。作業員は入院中、従業員は帰宅している。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
111	漏えい	1	5	30	神奈川県	なし	MMA製造設備で配管の封じ込め作業中に、第3石油類のメタクリル酸シクロヘキシルが約100ミリリットル漏洩したものの。火災危険はなし。火災危険はなくなったため消防隊は処置完了として現場を引き揚げた。同日19:17処置完了。
112	漏えい	1	5	31	広島県	なし	樹脂製造プラントから原料となる酢酸ビニルモノマーとメタノールの混合液が約350L漏えいした。漏えいに伴う事業所外流出及び人的被害はない。また、漏えいした混合液は、既に回収済み。
113	火災	1	6	3	茨城県	軽症2名	事業所内の乾燥炉(表面加工工場、第2乾燥機)から、煙が出ている。(塗料による火災が発生)消防車両9両出場。同日13:13鎮火。なお、現場作業員3名により初期消火に成功したが、内2名が喉の痛みを訴えた。その後、産業医の観察により不搬送になった。
114	火災	1	6	1	千葉県	なし	ガスタービン冷却空気熱交換器の高圧OTCと呼ばれる熱交換器の点検ノズル部の外部板金目地に使用したコーキング材が、高温配管部と接触し、コーキング材が発火したものの。すでに消火済み。
115	漏えい	1	6	1	愛知県	なし	改質再生装置の保温材から水素が漏洩。自動遮断により直ちに漏洩は停止。14時40分ごろ、定期巡視中に再生工程に使用する配管からシューという音がして水素の漏えいが認められたため、工程を停止した。(自動遮断したものではなかった)15時13分 窒素置換により対応。
116	漏えい	1	6	4	岡山県	なし	自主点検を行っていたところ、当該貯蔵所のポンプタンク(全10箇所)のうち、1箇所約700Lのジェット燃料の漏えいを確認。なお、漏えいはポンプタンク内に留まっており、場外への流失はない。
117	漏えい	1	6	4	山口県	なし	場所はコークス製造装置。屋外タンク貯蔵所から製造所へ原料(重油)を送る製造所内配管フランジから重油が漏えい。装置及び送液ポンプの停止、バルブ閉止により漏えいは停止(6/4 18:41)。構外への流出はなく、負傷者のいない。漏えい量は、1,020Lで、バキューム車及び吸着マットにより回収完了(6/4 21:18)。今後、配管に対して閉止版挿入による縁切りを実施予定。
118	火災	1	6	4	千葉県	なし	キャリアパレット車のエンジンルーム内のバッテリー配線と油圧ホースが擦れ合い、配線が摩擦したことによるショートもしくは半断線による発熱により出火したものの。すでに消火済み。
119	漏えい	1	6	5	福島県	なし	8号タービン建屋内において、誘引通風機の軸受から約100リットルの潤滑油が漏えいしたものの。漏えいした潤滑油は発電所の従業員が回収し、16時29分に消防が現場に到着したときは、漏えいは止まっており全量回収済みであった。
120	漏えい	1	6	6	茨城県	なし	13:25頃、重油2~3リットルが漏えいしたものの。現在、漏えいは止まっている。
121	漏えい	1	6	8	北海道	なし	事業所化に伴う廃止対応のため仮配管を設置してタンク底部の残油を別タンクへ移送中に、接続したホースの穴(亀裂)からベンゼンが防油堤内に漏えい。漏えい量は推定220kl。前後バルブの閉止により漏えい停止。公設消防の出動有り。
122	火災	1	6	8	千葉県	なし	硫黄回収装置において、少量の硫黄が燃えたものの。同日中に鎮火。
123	漏えい	1	6	11	茨城県	なし	危険物屋外タンク貯蔵所(2000kl)の底部付近のノズル部から60%過酸化水素が、約100L/h流出したものの。当該タンクから移送先タンクへ移送完了し、6月12日18:42漏洩停止。
124	火災	1	6	11	神奈川県	なし	建物内移動式クレーンのブレーカーを入れたところ、電源スイッチからオレンジ色の閃光及び白煙があがったもの。事業所作業員が作業服で消し止めた。鎮火:6月11日(火)8時40分
125	漏えい	1	6	11	和歌山県	なし	595タンクから硫黄が約20L(推定)漏洩。漏洩ヶ所等は不明。場内外への流出は認められない。
126	火災	1	6	12	山形県	なし	石油コンビナート等特別防災区域内の工場(事業者名確認中)で、倉庫の外壁工事中に、火花が屋外の枯草に着火し、延焼(8㎡)。工事中の作業員が初期消火に対応し、消防車両2台が出動したが、10時25分に消防車両到着時は、既に鎮火していた。
127	漏えい	1	6	14	千葉県	なし	事業所からキシレンタンクが膨らんでいる旨通報があったもの。消防隊による現場確認の結果、屋外タンク貯蔵所の破損を確認した。
128	漏えい	1	6	14	神奈川県	なし	工場内で発電施設に供給する都市ガス配管から都市ガスが漏洩。消防隊によりガス検知活動するもガス検知されず、ガス会社職員が腐食した配管(直径150mm)を処置。6月14日22:00処置完了。
129	漏えい	1	6	15	神奈川県	なし	工場内で発電施設に供給する都市ガス配管で、6月14日ガス漏洩し処置した同箇所から都市ガスが再度漏洩。ガス検知活動の結果ガス検知されないが、6月14日漏洩しバンテージを巻いた箇所から若干の漏洩を確認。ガス供給を停止することができないことから、Bテープを漏洩箇所巻き、処置完了とした。6月15日21:23処置完了。
130	漏えい	1	6	15	三重県	なし	通常運転中、重質ナフサ改質装置より出火。従業員が消火器等により初期消火を実施し当日鎮火した。
131	漏えい	1	6	19	神奈川県	なし	発電所(潤滑油16kl、重油1,680kl)施設内において、発電機の潤滑油が約100~150L漏えいしたものの。・消防隊により警戒筒先配備。・ガス検知器で検知するも、異常なし。
132	漏えい	1	6	19	和歌山県	なし	発電設備始動点検のため助燃油(軽油)を送油したところ、1号ボイラ1号燃料ポンプ室の点火トーチ供給ラインの配管から約5L漏えい。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
133	漏えい	1	6	21	神奈川県	なし	流動接触分解装置において、何らかの原因によりコンプレッサーが停止したことにより、圧力が上昇し施設内の安全弁からガソリンが約70リットル流出したものの。11:25現在、漏洩は停止。流出量確認中。同日11:40使用停止命令発動。11:42滞油抜き開始。11:53漏洩停止。16:25漏洩したガソリンの撤去完了。16:25使用停止命令解除。
134	火災	1	6	23	福岡県	なし	熱延工場北側の屋外に設置された鉄塊を運ぶターンテーブルで何らかの原因で出火。14時8分鎮火
135	火災	1	6	24	千葉県	なし	PB設備(危険物製造所)のドレン配管から金属ナトリウムが漏洩し、火災が発生したもの。同日中に鎮火。
136	火災	1	6	24	千葉県	なし	掃除機が焼損したもの。すでに消火済み。
137	漏えい	1	6	22	山形県	なし	タービン給水処理室内にある洗浄用塩酸タンクから、約40リットルの塩酸が防液堤に漏えい。事業所職員が漏えいした塩酸全量を希釈処理して対処(漏えいは停止)。その後、当該事故を消防署に通報。消防署職員は現地に急行し、塩酸が防液堤に漏えいして事業所職員が漏えいした塩酸全量を希釈処理して対処したことを確認。
138	漏えい	1	6	25	神奈川県	なし	屋外タンク開放にともなうキシレンを張り込み中、防油堤内にキシレンが約100リットル漏洩したもの。同日16:56処置完了。
139	漏えい	1	6	25	和歌山県	なし	潤滑油水素化精製装置からタンクへ送油する2インチ配管から腐食のため軽質油20Lが漏えい。
140	漏えい	1	6	26	福島県	なし	屋外のホルマリンタンクの配管から、約100リットルのホルマリン(劇物)が漏えい。防災要員が漏えいしたホルマリンを希釈処理して対処(漏えいは停止)。事業所は消防署に通報。通報を受けた消防署の職員は現場に到着し、漏えいが停止しており、漏えいしたホルマリンを希釈処理して対処済みであったことを確認。
141	漏えい	1	6	27	神奈川県	なし	配管からA重油を含む軽質油が約10リットル漏洩したもの。ガス検知反応なし。海上に油膜は確認できない。配管からの漏洩は停止し。ガス検知器による反応はないため、6月27日 18:18処置完了。オイルパンで漏洩物を回収。事業所により海上にオイルフェンス設置。
142	漏えい	1	6	28	神奈川県	なし	冷却塔に水を送るタービンポンプの潤滑油が約400リットル流出したもの。同日23:41事業所職員が漏洩停止、消防隊が現認、海上流出なし。同日23:41処置完了。タービンポンプの圧力計ゲージが取れており、そこから潤滑油が流出したもの。当該ポンプのストレーナーが詰まっていた模様であるが、因果関係、漏洩原因は現在調査中。
144	漏えい	1	6	29	千葉県	なし	バキューム車を使用し排水配管を洗浄していたところ油圧オイルが高温になり、レベルゲージが溶融したため作動油が漏れ出し、付近の排水溝をとおり川に流出したもの。
148	漏えい	1	6	23	和歌山県	なし	窒素製造設備の熱交換器入口配管(サイズ3/4B アルミ合金)において、通常大気の水蒸気が凍り配管に付着しているが、冷気の流れが周辺と異なることに気づき、縁切りしリークテストを行った。運転状態では氷の影響により、リークの確認ができなかったが、縁切りした結果、当該配管2箇所から漏えいが認められた(漏えい量は微量)。